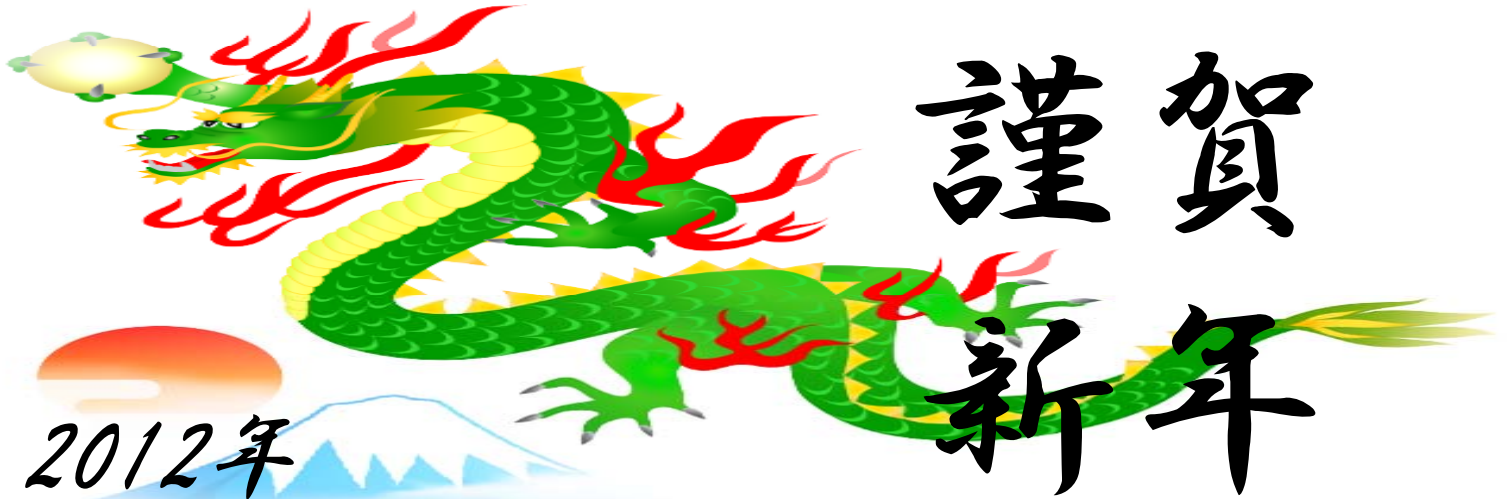


朱鷺つと



あけましておめでとうございます。本年もよろしくお願い致します。
平成24年 元旦

人事異動情報

平成24年1月1日付

新潟病院 玉井真紀技師 (育児休暇より復帰)
菅井めぐ美技師 (非常勤採用)

新潟地区会理事新年のご挨拶



国立病院機構
新潟病院臨床検査科
国臨協関信支部新潟地区会
会長 御子柴 佳剛

新年あけましておめでとうございます。
新潟地区会の会員の皆様におかれましては、健やかに新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

昨年の定期総会におきまして、地区会長の任を仰せ付かり身が引き締まる思いです。今年度の活動計画として承認されました交流会や、定期総会・研修会の開催を通じまして、会員相互の活発なコミュニケーションが図れることを期待致しております。理事一同、地区会活動を盛り上げて参りたいと思いますので、会員皆様の積極的な参加とご協力をお願い致します。

最後に会員の皆様のご健康と益々のご活躍を祈念して新年の挨拶とさせていただきます。



国立病院機構
新潟病院臨床検査科
国臨協関信支部新潟地区会
副会長 赤堀 良道

明けましておめでとうございます。地区会員の皆様にはお健やかに新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。
旧年中は本会の活動に際しご理解とご協力を賜り心よりお礼申し上げます。

昨年は東日本大震災と原発事故によりたくさんの方が被災され、悲しい年となってしまいました。幸い新潟県は大きな被害はありませんでしたが、毎日のように報道される東北地方のあまりに悲惨な現状に胸が詰まる思いでした。犠牲になられた方々に対し謹んでご冥福をお祈りするとともに、一日も早い復旧、復興を心より願うばかりです。世の中がきびしい状況にある中、医療分野も例外ではありませんが、このような時だからこそ一致団結し、臨床検査を通して地域医療に貢献できるよう頑張っていきましょう。

最後になりましたが、会員の皆様のご健康と益々のご活躍をお祈り申し上げます。新年のあいさつと致します。



国立病院機構
さいがた病院臨床検査科
国臨協関信支部新潟地区会
事務局担当 大木 翔平

新年あけましておめでとうございます。

皆様お健やかに新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

私自身新潟で3回目の冬を越す所ですが、やっと新潟の雪に慣れてきたところです。

また、今年は地区会理事として2期目を迎え、事務局担当として昨年度以上に活発な活動が出来るよう努力する次第であります。その為にも会員の皆様のご理解・ご協力が必要不可欠です。どうかよろしくお願い致します。今年の地区会活動として一番近い行事はさいがた病院主催の交流会です。ご期待ください。

最後になりましたが、会員の皆様のご健康とご活躍を心よりお祈り申し上げますとともに、今後もご指導、ご鞭撻の程、よろしくお願い致します。

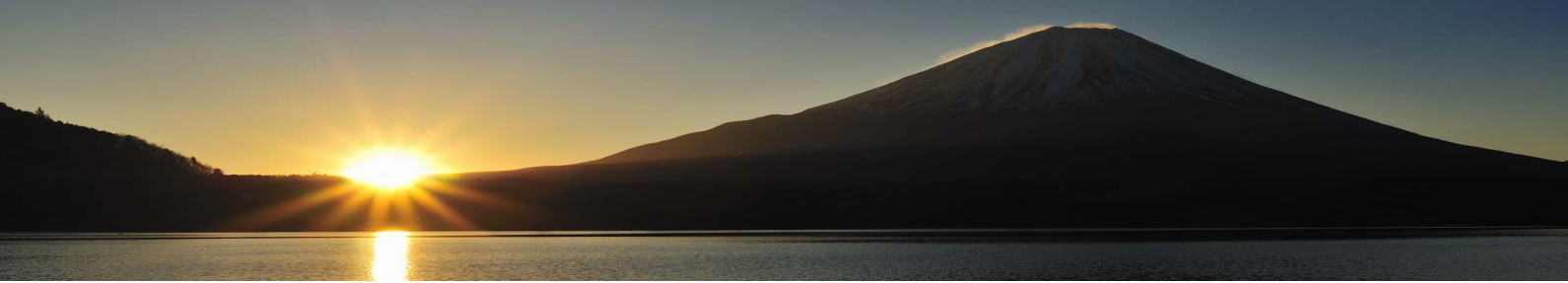


国立病院機構
西新潟中央病院臨床検査科
国臨協関信支部新潟地区会
会計担当 霜田 由美子

新年明けましておめでとうございます。会員の皆様におかれましては健やかに新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

私は、平成23年度の地区会の会計を担当させていただいております。初めてのことで、皆様にはご迷惑をおかけすることもあると思いますが、努力致しますので、今後ともご指導の程よろしくお願い申し上げます。

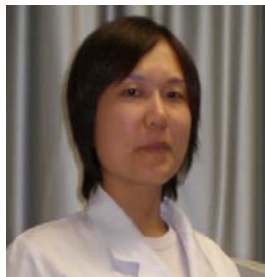




人事異動挨拶

冒頭でもお知らせしました通り、新潟病院にて1月1日付けで人事異動がありました。

育児休暇復帰のご挨拶



国立病院機構
新潟病院 臨床検査科

玉井 真紀

新年明けましておめでとうございます。新潟地区会の皆様、どうもご無沙汰しております。一昨年末に無事に息子が生まれ、約一年の育児休暇を頂き、新年より職場復帰致しました。休暇中は想像していたよりも慌ただしい毎日でしたが、お陰様で息子の成長をじっくりと見守ることができ、充実した日々を過ごすことができました。新潟病院検査科をはじめ皆様には心から感謝致します。

復帰後間もなく、3歳の男の子の脳波検査を行いました。その子は睡眠賦活脳波のため薬を飲み、やっとの思いで睡眠に入り検査を開始しました。隣でお父さんが見守っている中、絶対に途中で起こしたりしないようにと強く思いながら検査を進めました。出産前の私であれば、そのような気持にはならなかったのではないかと思います。また、十数年前になりますが、実習中にお世話になった技師さんから「患者様や検体は、自分の家族や家族のものと思って大切に扱いなさい。」と教えて頂いたことを思い出しました。

仕事に復帰し、改めて患者様のために速く、正確に、丁寧に検査をしていこうと思った次第です。地区会の皆様には今後ともお世話になりますが、ご指導、ご鞭撻のほどよろしくお願い致します。

非常勤採用のご挨拶

新潟地区会の皆様、新年明けましておめでとうございます。
この度1月1日から3月31日までの期間、非常勤職員として新潟病院に採用になりました。去年の12月1日から臨時的任用として新潟病院でお世話になっており、1年が経過しました。

この1年振り返ってみて尊敬する上司や先輩に出会い、ご指導いただきましたことで自分の甘さ、未熟さに気づき毎日が勉強になることばかりでした。

これからも困難や壁に自らぶち当たり、よく考え行動し与えられた業務を確実にこなしていくことはもちろんのこと、先やまわりをよく見て何をすべきかをよく考えて行動できるように日々精進していきたいと思います。

最後に、新潟地区会の皆様、交流会や研修会などであたたかく接していただきどうもありがとうございました。これからも新潟地区会のため、新潟病院のため一生懸命頑張りたいと思いますので変わらぬご指導のほどよろしくお願い申し上げます。



国立病院機構
新潟病院 臨床検査科

菅井 めぐ美



平成23年度新潟地区会定期総会研修会報告

平成23年11月12日(土)NHQ西新潟病院 研修棟2階(研修室)において第31回国臨協関信支部 新潟地区会定期総会・研修会が開催されました。

当日は、来賓に関東関信ブロック事務所 統括部医療課 上条 敏夫臨床検査専門職、田島紹吉関信支部長、林 亮関信副支部長をお迎えし、新潟地区3施設から20名の参加がありました。

研修会では、特別講演2題がおこなわれ、1題目は「エコノミークラス症候群予防経過報告」についてNHQ新潟病院 品田技師の講演がありました。2題目は「臨床検査部門の現状と課題」と題し関東関信ブロック事務所 総括部医療課 上条 敏夫臨床検査専門職に講演していただきました。

定期総会においては、田島 紹吉関信支部長より来賓挨拶、林 亮関信副支部長より関信支部活動報告をうけ無事に定期総会を終了しました。

その後、場所を新潟市駅近くの繁華街に移動し懇親会を行いました。美味しい料理とお酒を堪能しながら親睦を深め、あっという間の約2時間でした。

当日担当していただいた西新潟のスタッフの皆さんお疲れ様でした。

(赤堀)

「臨床検査部門の現状と課題」を聴講して

平成23年11月12日に開催された国臨協関信支部新潟地区会研修会において、上条臨床検査専門職より、「臨床検査部門の現状と課題」について講演をしていただきました。

以下に要点を記します。

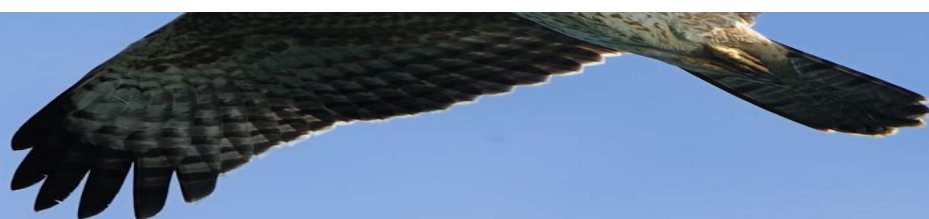


国立病院機構
さいがた病院
臨床検査科

中村宏紀

- ・平成22年度日本医師会精度管理においては、平均点が98.7点、100点は6施設(関信管内)。
- ・認定資格取得数は、合格者がしばらくでていなかった輸血認定技師において2名が新たに合格した。
- ・平成23年度登録任用試験では78名が受験し、35名を登録した。
- ・第5期の試薬共同入札は、それぞれの試薬においてメーカー単位の入札となる。
- ・平成24年3月末で6名の技師長が退官される。引き続き、がん研究センターとNHQの人事交流は行わない。
- ・主任技師の任用候補者制度が今年度から始まった。プレゼン形式による面接方法であり、10項目の評価項目がある。
- ・内部監査においてはコメディカルの参加が要請され、全施設ではないが、臨床検査専門職も新たに同行することとなった。

上条専門職は、4月に技師長職および臨床検査専門職を併任され、多忙であるにもかかわらず、新潟地区会のために遠路お越し頂き、最新の情報やこれからの直面する問題点等を話され、有意義な時間となりました。地区会員一同感謝申し上げます。





エコノミークラス症候群予防検査経過報告

阪神淡路大震災の記憶が薄れ掛けた2004年10月23日17時56分、地面から突き上げる衝撃、その直後左右に大きな揺れを感じました。中越大震災発生の瞬間である。暗闇でふと夜空を見ると、美しい星空と流れ星がいくつも見えました。大地震が発生した事を自覚するまで時間が掛かったような気がしました。その日から私は、避難所生活が始まりました。

1週間後、新潟大学の榛沢先生から「下肢静脈エコー検査の手伝いに来て!! 救急車で車中泊者のところを回るから」と連絡があった。テレビの無い避難生活での私は、車中泊の方が、肺塞栓で死亡したことは知りませんでした。地元住民や医療関係者に「車中泊と肺塞栓、下肢静脈エコー検査と肺塞栓予防」の関連を理解していただくには大変でした。

中越大震災での死亡者は68名(建物・土砂の下敷き 16名、震災関連死52名)で震災関連死の中に肺塞栓症が4名で、全員が軽自動車での車中泊者で40～50代の女性でした。

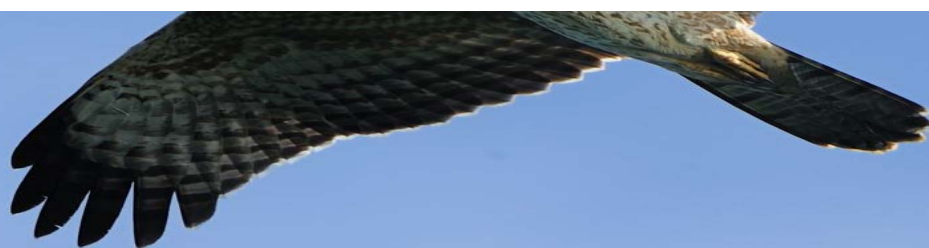


国立病院機構
新潟病院
臨床検査科

品田恭子

救急車で巡回検査と同時に魚沼病院検査室を借用し、新潟県臨床検査技師会生理検査研究班の協力で臨床検査技師が交代で下肢静脈エコー検査と弾性ストッキングの配布を実施しました。震災後2週間までに78人の検査を実施して、35%の方に血栓が認められました。症状のある方に呼びかけた為、非常に高率の血栓陽性率でした。35%の血栓陽性率は驚きの数値でマスコミを騒がせたと同時に、地元医療関係者や行政(特に保健師)に大きな混乱が生じました。翌年再び2月28日から3月31日まで魚沼病院検査室で生理検査研究班の協力を得て、陽性者のフォローアップ検査を実施しました。中越大震災1年後に小千谷市で大規模な被災者住民のエコノミークラス症候群予防検診を計画し、行政からの予算援助を得るべく、エコノミークラス症候群予防検診支援会組織を2005年11月18日に立ち上げました。会長新潟大学榛沢和彦、医療アドバイザー新潟病院副院長中島孝、事務局長に元西新潟中央病院臨床検査技師長目崎芳朗、事務局を目崎さんの自宅に設置し、小千谷市長、小千谷市市会議員、県会議員、地元出身国会議員、地元医師会、復興基金に支援要請の陳情書を提出しました。しかし、地震と車中泊、肺塞栓症の関係に理解が得られず、協力は得られましたが予算援助はありませんでした。

予算が無いまま、全てボランティアと業者のご好意で、地震後1年目の検診を小千谷市7ヶ所の町内会役員の協力で実施をし、十日町では津南病院の協力で検診を実施しました。地震後1年目検診結果は受診者数1231人(男性412人、女性819人)、血栓陽性者数92人陽性率7.5%でした。欧米の無症候性血栓陽性率は1.0%ですので7.5%は非常に高率でありました。1年目の結果について地元医師会から、検診結果の説明、地域医師会会員へ学術的説得力の有る資料の提供、地域住民への正しい広報を行なうように要請があり、地元医師会主催の中越大震災で被害に遭われた地域医療関係者を対象に「中越大震災後のエコノミークラス症候群の実態と今後の対応」について学術講演会を開催しました。なかなか医療関係者、特に保健師の理解が得られず現場での混乱があったようですが、この講演で肺塞栓症、下肢静脈エコー検査の理解が得られた様に思われました。





震災1年後の検診結果で、国から県に調査費が付き「新潟県中越大震災被災地における健康相談のあり方検討会」が設置され、生活不活化と静脈血栓塞栓症に関する調査が行われることとなり、阿賀町で対象地（非被災地）調査を実施致しました。この阿賀町での対象地域結果は血栓陽性率1.8%であり、あきらかに被災地が高率であることが証明されました。その後、「新潟県中越大震災地住民に対する深部静脈血栓症（DVT）/肺塞栓症（PE）の診断・治療ガイドライン」を作成し、医師・医療従事者に対して、説明会を開催致しました。その後発生した能登半島地震、中越沖地震、岩手・宮城内陸地震においては肺塞栓症予防活動が取り組まれ、車中泊者から死亡者を出すことはありませんでした。予防パンフレットの配布、避難所の環境改善、避難者の体操等が盛んに行なわれ、被災者と肺塞栓症の関連が十分理解された結果だと思いました。

「阪神淡路大震災の教訓は生かされたか？」

中越大震災の地震規模は阪神淡路大震災とほぼ同程度でしたが、あきらかに犠牲者が少なかったのは教訓が生かされたからだと思います。建築基準が厳しくなり阪神淡路大震災後に建築された建物の倒壊がほとんど無かった事や、ガス設備の改善が行われ地震と同時にガスが遮断された事により、火災による犠牲者は出ませんでした。しかし新たに肺塞栓症による震災関連死が発生し、注目を浴びました。

「中越大震災の教訓は生かされたか？」

エコノミークラス症候群予防活動により、肺塞栓症や深部静脈血栓症が医療関係者から注目されるようになりました。被災者には車中泊、避難所の環境、ストレス、脱水等が体に悪影響を及ぼすことが理解され、その後発生した能登半島地震、中越沖地震、岩手・宮城内陸地震では車中泊を避ける為に、避難所の環境改善（トイレの設置、間仕切りしてのプライバシーの保護等）が行われたことで肺塞栓症での死亡者をゼロにする事が出来ました。

その後、エコノミークラス症候群予防検診支援会は中越大震災後大勢の医療関係者や業者の協力を得て毎年、小千谷市・十日町・柏崎市でのフォローアップ検診を実施してきました。中越大震災の検診では大学の科学研究費、中越沖地震では新潟県復興基金から予算を頂き活動できるようになりました。平成22年までに協力頂いた方々は延べ、医師189人、臨床検査技師633人・看護師114人・その他127人であり、エコノミークラス症候群予防検診受診者総数は6526人を数えました。平成23年はまだ正確な集計できておりませんが、東日本大震災で新潟県に避難して来た人々の検診を含め約1,600人に検診を実施を致しました。

今日までの活動で検証された事を今後の災害医療に役立てていくことが重要と思われます。長い間、エコノミークラス症候群予防検診支援会を支えてくれた皆様に感謝申し上げますとともに、今後とも更なる協力をお願い申し上げます。





新年の目標

西新潟中央病院

- ・減量目標65Kgを目指します！N.Y
- ・体力をつける！Y.S
- ・新しい趣味を見つける。H.K
- ・今年も、判定ミスのないように十分注意して鏡検を行う。そして、ケガにも気をつけ、落ちた筋力をアップさせる！！T.M
- ・「今やる、直ぐやる、全部やる。」H. H
- ・3Kg減量！ S.K
- ・趣味を増やす T.M
- ・ワン・ツー・スリー リズミカルに行動！ K.T
- ・年々、体力が落ちてきているので、新年度は週1回は運動したいです。K

運動や痩せるなど体を動かす目標が多い西新潟さん。1年後、スリム＆マッチョになった皆さんの姿楽しみにしておきます。

新潟病院

- | | |
|---------------------|-----------|
| ・“今できることをしよう”を頑張ります | リンゴっこ2011 |
| ・宝くじ当てたら辞めてやる今年こそ | スネークアイ |
| ・過ごしたい年穏無事な毎日を | 辰っちゃん |
| ・ハッスルだ苦手なものこそ一歩出す | にゃんたん |
| ・泣き崩れ顔を覆って舌を出し | これで逮捕は免れた |
| ・今年こそ当てるぞ一等三億円 | 一攫千金 |
| ・後わずか全力投球で身辺整理 | K・S |

年末ジャンボは当たったのでしょうか？結果が気になります。

さいがた病院

- ・資格取得の為にコツコツ勉強する、そしてローン返済(六連星)
- ・クエ鍋を食べる(りり子)
- ・減煙→禁煙(←希望)(悠歩奏)
- ・何事もなく平穏無事に過ごせたら... (Devil505)
- ・継続は力なり(サイメン・・・さいがた病院電子カルテの愛称です)
- ・初志貫徹 (ソプラノママ)
- ・万理一空 (ホップ・ステップ・よいしょ)

今年は比較的真面目？なさいがた病院の方々。サイメン導入は3月です。



今年の主な活動予定

平成24年1月21日	地区代表者会議(御子柴会長出席)
4月中旬～5月中旬	新潟地区交流会(担当:さいがた病院)
5月下旬～6月上旬	朱鷺っと 第65号発行予定
9月関信支部学会	地区会ポスター展示
10月総会前	朱鷺っと 第66号発行予定
10月中旬～11月上旬	第32回新潟地区定期総会・研修会(担当:新潟病院)

